

# 令和3年度 第2回 学校評議員会 議事録

日時：令和3年10月14日（木）9：30～11：30

## 参加者

岡田 龍一 様（元阪神南地域教育推進委員 芦屋市浜町自治会長）  
河合 優年 様（武庫川女子大学副学長 教育心理学博士）  
木場 修司 様（県立芦屋国際中等教育学校 同窓会長）  
鈴木 直子 様（県立芦屋国際中等教育学校 元PTA会長）  
上田多見子 様（県立芦屋国際中等教育学校 元PTA会長）  
荒井 ふみ 様（県立芦屋国際中等教育学校 PTA副会長）

## 1 開会あいさつ

学校長

多忙の中の出席に感謝している。

コロナ禍の中、様々な制限の下、授業や行事を進めている。コロナ感染者が増加する中での二学期のスタートであったが、感染予防に努めながら、時差登校はせずに通常の時間帯で始めた。しかし、関係者で陽性者や体調不良者があり、学年閉鎖をした学年もあった。9月25日には、規模を縮小して体育大会を実施した。現在は、通常の学校生活が続けられている状態であるが、ワクチン接種の公欠、その副作用の出席停止の事務処理に追われている状態である。

本日は、今年度の中間評価の結果を見ながらの学校評議員会となる。コロナ禍の中、精一杯やっているが、コロナ以前と比べると低い状態である。本年度の取組についてご助言をいただきたい。

## 2 授業見学（9：40～10：30）

## 3 行事等の報告（教頭）

緊急事態宣言下の中、多くの制限、制約があるなか、生徒会が中心になって生徒たち自らが知恵を出し、工夫し、努力し、2年ぶりに文化祭を開催することができた。9月下旬の体育大会も緊急事態宣言下の中での開催となり、午前開催、無観客と規模を縮小して行った。

## 4 学校評価（中間評価）について

概要の説明（教頭）

### ①本年度の重点項目

9月末で兵庫県に発出されていた緊急事態宣言が解除されたとはいえ、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事を縮小して開催したり、部活動等の活動も制限を受けるなど、現在も学校現場は、今までとは異なる新たな対応を迫られている。このことが、今回の学校評価にも大きく影響していると考えられる。

### ・「授業力の向上と学習指導の充実」

全体的な傾向としては、昨年と同様である。「各授業時（間）の目標を明確に示すなど、創意工夫した授業の実践に努める。」の評価1が0.0%であることは、授業においてICT活用が進んだことによって、目標の提示が容易になったこと、また特別支援的な配慮について各教員が

取り組み始めた結果と考えられる。「公開授業・研究授業を行うなど、教職員間で協働し、授業改善に努める。」のポイントが下がっていることについては、コロナ対策用務が増え、十分な時間が確保できていないことが原因の一つではないかと思われる。

・「情報発信とコミュニケーションの充実」

全体的にポイントがやや下がっているが、Classi を用いた情報発信は昨年度よりも進んでおり、情報発信については、一定の成果を上げていると考えられる。ただ、このことについてもコロナ対策用務が増えたことから感じる多忙感が評価を下げた一因になっているのではないかと考えられる。今後、情報発信に対するレスポンスについても注視していきたい。

②専門部の業務評価

昨年度の間評価と比べ、ポイントを下げている項目が多く見られる。年度途中であること、昨年度同様コロナ対策で、現段階では実施できていない項目があるので、年度末の評価の結果を待ちたい。また、今年度新たに、教務、保健の評価項目として「新型コロナウイルス対策関係」を、またネットワーク管理の評価項目として、来年度から始まる「BYODに向けて」を追加した。

5 意見交換

(評議員) 見学した授業は良かった。人権教育の取組など、また見てみたい。教室運営、教室の美化、整備にさらに取り組んでほしい。教室の前面の使い方に工夫を凝らしてみてもどうか。

(評議員) 前回見学時より工夫、改善されている授業があった。Practical English の授業は、この学校に合っていて、おもしろい授業だと感じた。授業中、机の上に不要な物を置いている状態では集中しづらいと思う。学校評価(中間評価)については、今後改善のための手立てを考えるべき。総合的な探究の時間の評価Bは気になる要因だ。深く学ぶとはどういうことか改めて考えるべき。何ができるようになるかを意識して取り組んでほしい。

(評議員) HR 教室で授業を受けると、カバンなどの荷物があり集中しづらい環境であると感じた。その点、選択教室での授業はいい環境だ。学校評価(中間評価)は、芦国ならではの、ということを考えてほしい。多文化共生をどのように学校の中で実現していくのか、課題である。芦国ならではの科目設定はあるのか。多文化共生を意識していくならば、名前の表記などにも注意を払うべきだ。また、和暦だけではなく、西暦の併記も情報保障として必要だ。このような取組が、多文化社会を生きる人間形成に繋がるのだと思う。

(評議員) 前期の日本語支援が、手厚く、きめ細かになっていると感じた。3年生の英語は、レベルが上がっている。さすがだと感じた。第二外国語の学習も特徴的。国際社会に貢献していくためには、コミュニケーション能力を身につけ、さらに頑張ってもらいたい。

(評議員) 音楽の授業で、歌を歌っている姿は心に響いた。元気をもらった。PTCA の評価がCなのは残念。他校との交流や、国際高校との共同清掃活動がコロナで中止になったのは大きかった。近隣の児童生徒の登下校の姿を見ているが、芦国生はあいさつもしっかりとできている。

(評議員) 体育大会での生徒の工夫、生徒の柔軟さに感動した。今後、学級閉鎖や学年閉鎖になった時のために、避難訓練的にその時の対応の練習を年に1回ぐらいやっているほうがいいのではないかと。Zoom 授業については、PTA の資源も活用していただきたい。体育、音楽、部活動でも Zoom の活用ができるのではないかと。次の感染爆発に向けて、十分に準備をしていただきたい。体育大会で転倒する生徒が多く気になった。

6 その他

第3回学校評議員会 令和4年3月17日（木）9：30～11：30

7 閉会あいさつ

学校長

現在、感染者が減っている状況だが、今後に向けて、何ができるのかを考えておきたい。来年度から新学習指導要領に4年次から年次進行で変わる。観点別評価など、新しいことに取り組みながら、多様性、多文化共生を踏まえて舵取りを行っていききたい。また、お気づきの点があれば、ご意見をいただき改善していききたい。